

2020.10.28 「八王子市由木中央市民センター図書館」視察報告

2020.11.5. 桜井明宏

鶴川図書館大好きの会5名で、市民協働の例として八王子市の由木中央市民センター図書館見学の計画がやっと実現した。八王子側からは図書館長、市民センター図書館担当職員、住民協議会会長、協議会の図書館部長など6名が参加。

まず図書館長の高野さんから当館の沿革について。

市民センターは、全体を市の協働推進課が担当し、その管理運営を八王子市学園都市文化ふれあい財団に指定管理で委ね、更に財団から住民協議会に運営を委託。市民センターが委託されて運営する「地区図書室」は17か所があったが、その中でH18年より「市立図書館として中央図書館分館化」したのが現在5館(分室としての位置付けで、閉架書庫を持たない)。図書館化後は、図書館が財団を通さずに、直接住民協議会に委託。由木では令和元年12月から。市費で司書2名が派遣され、図書費も図書館が持ち、市内全域の図書検索も可能となった。日々の業務は、司書1人と業務員が2～3人、早番と遅番で交代して勤務。カウンター業務は業務員、レファレンス等は司書が担当。運営については「住民協議会」が地区図書室時代から委託を受けている。ただし見直しの動きも有り、との事。

次いで質疑がおこなわれた。

Q:図書館の経費は？

A:各図書館が判断するが、中央図書館予算に含まれる。中に2人の「会計年度任用職員」の人件費も含まれる。

Q:図書館費用は幾らか？

A:(年で)約150万弱。

Q:「図書館分館化」を決めた動機は？

A:平成元年より「図書室」は在ったが、住民からボトムアップしてきたものを市の教育委員会も認め、地域での必要性を認めて予算化した。

Q:地域図書室のころはどう違った？

A:開館時間は9:00から21:00だが職員滞在は14:00から17:00のみで、他は地域の人が運営していた。

Q 読書のまちというように読書推進に舵を切ったのは？

A:H11年・前の市長の頃には緊縮で「返す以上には借りない」予算方針に。しかしH16年から市の「読書の町」推進構想が作られてH18年「読書の日」も設けられた。

Q:市立図書館となって変わった事は？

A:業務員の人員は10人から16人に増えて安定し、時給体制もアップ。蔵書も2～3万に増えた。盗難も始めは多かったが今は減った。都や全国からも本を取り寄せられるなど利便性は増したが運営等も給与計算など作業が増えて大変に。募集条件は、パソコンができる人くらい、スタートの時に3日間、中央で研修の上、司書の指導を受

けて「業務員」として働く。

・貸出冊数も3冊から10冊までに増えた。

・住民と職員は親密で、子育ての相談など受けることも有り。利用者数が増えれば人数も増やすことも考えなければ。

Q:会計年度職員の扱いは？

A:司書は嘱託職員で、中央図書館が雇用。

Q:図書館の職員体制は？

A:八王子市内で職員48名〔管理職も含む、司書資格は半分くらい〕、嘱託が81名(全員司書資格有)。窓口等バイトが100名ほど。

Q:プリントの「図書館(整備)計画についてのところに、「昨年度の会議で見直しの方
向性が提案」とあるが職員の会議か？

A:部内に加え、市の他部署の部長も交えたもの。

Q:地域の運営とは八王子市の伝統か？

A:地域がベース。地域運営は場所によって高齢化しているところもある。体制が整ったところから分館化している。

Q:トラブルは発生しないか？

A:市の方に上がってきてはいない。図書館としては無し。ただし入ってくる怪しい人物がいる場合は市民センター職員を通じて警察に連絡する。入口など防犯カメラを置き、抑止力となっている。

・由木には新聞を置いていないが、新聞を置いている所でもトラブルとはなっていない。「こんなの図書館でない」、とクレームを言う人もいるが。館長を出せ、とまではなっていない。

・司書が様子を見る為に分館などの巡回も行っている。

Q:選書は誰がするのか？

A:司書が行うが、中央図書館で見計らいを一緒にする事も。TRCから送られてくる本もある。

Q:地区図書館17か所と言われたが、プリントには16カ所とある。一か所増えている？

A:「南野」は、元々市民センターではなく、東京工科大学からフロア有効活用を委託されて、市民センターと図書館が設置された。

Q:図書室はどのようなタイミングで設置されたのか？

A:市民センターを設ける時に併設された。「都立」のものもあり。その前は「移動図書館」があったが今は廃止。市長の考えで今も導入している市があるが。

Q:学校との連携は？

A:資料に示した通り「工作」や地域の人とのビブリオバトルなども実施している。もう一歩踏み出すべきか。

Q:利用者は予約も多いか？

A:今は予約の人が増えた。「子どもの本」は書架を設置。年配者や子ども連れの保護者の利用も多い。徒歩圏での高齢者には単行本は重くなるので文庫を増やしている。土日は、若い人も多く、遠方からも来る。

ニュータウン方面には〔分館でなく〕通常の図書館もある。駐車場無料なので車の利用が多い。

Q:業務員の労働時間は？

A:早番と遅番で各4時間交代。(図書室時代から)元々半日ずつ。司書は終日。

Q:お話し会などは？

A:地区図書室時代から、業務員で行ってきた。担当まで決めていたが今年はコロナ禍で中止になっていた。今は広い場所で、一日2組くらい行っているが、人数が増えるならもう一回くらい増やせる。常連利用者からは子育て相談も受ける。

Q:工作教室と絵本広場は？

A:自分個人でも行っていたので募集してみた。「センター祭り」ではほかに古本まつりもしたが、今年は無しに。

Q:業務員募集は？

A:募ると多く集まる。1年の任期で9町会で募集したら5名の枠に15名が志望。各地域の住民協議会は各町会がぶら下がり。市との交渉は上部としての八王子住民協議会が行っている。

・由木は、旧24ヵ村から構成された昔ながらの場所。今は分かれたが、それでも特殊な地域として活動している。

Q:職員と会計年度職員の仕事については？

A:職員の人数を減らしている。図書館の専門の仕事は司書の会計年度任用職員が担う。選書、リファレンスなども。

Q/会計年度任用職員の雇用は？

A:八王子では図書館だけでなく、市の方針で、全市で、一律に5年で切らない。

説明・懇談会後の見学時にわかった便利な点

・他館にある大型紙芝居、超大型絵本もネットから予約ができ、近くの図書館で受け取れる。

・八王子市内の全郵便局に返却ポストが置かれている。図書館側が全郵便局を回って回収し、その後返却処理をするとのこと。とても便利そうなシステムのように思った。図書館の入り口に貼ってあったポスターによれば、その他に駅や市役所など6カ所に返却ポストがあり、調べてみると、年々返却ポストを増やして市民の利便性を向上させていることがわかった。